

## 2 児童生徒の「ことばの力」の評価

私たちが目の前の児童生徒をどのように評価するかは、その児童生徒の未来を大きく左右します。「日本語ができない存在」として見るのはなく、「日本語も母語もできる可能性のある存在」として捉え、児童生徒の多様な文化的・言語的背景や思考過程に目を向けることで、可能性を最大限に引き出すことができます。

そのためには、令和7年4月に文部科学省が開発した「ことばの発達と習得のものさし」（以下「ことばの力のものさし」）等を活用し、児童生徒の言葉の力を適切に評価できるようにすることが大切です。「ことばの力のものさし」とは、小学校段階から高等学校段階までの外国人児童生徒等のことばの力を包括的に捉え、個に応じた指導・支援のための「評価の枠組み」です。この「ことばの力のものさし」や改訂された「文化的言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等のための対話型アセスメントDLA」を活用し、学校等において一人一人の児童生徒のことばの力を踏まえた適切な指導・支援を行うようにします。

### (1) 「ことばの力のものさし」の概要

#### ① 何のために評価するか

- ・多文化多言語の児童生徒の年齢に伴う認知的な発達を支えることばの力を捉えるために評価します。
- ・一人一人の児童生徒に応じた学習・指導計画を立てるために行う「学習を支える評価」です。

#### ② 誰の何を評価するか

- ・小学校段階から高等学校段階までの児童生徒のことばの力を評価します。
- ・一人でできることだけでなく、支援を得て発揮できる最大限の力を評価します。
- ・年齢に伴うことばの発達と日本語取得の各段階に応じて、評価の目安となる重要な力に絞って記述しています。

#### ③ 思考・判断・表現を支える包括的なことばの力(複数言語での力)の発達ステージについて

- ・日本語も母語もあわせて、児童生徒がもっているすべてのことばのレパートリーを使って最大限にできることを、次の観点から、A～Fの六つのステージで評価します。（図1）
- ・ステージが一段階進むには、数年かかるのが一般的です。

図 1 「包括的なことばの発達のステージ」の各段階の特徴

		年齢枠の範囲	各ステージの特徴	
ステージF [評価・発展]期			中3～高校 段階	中学～高校の教科学習内容、抽象的概念、実社会の話題 多角的・批判的視点からの議論・意見、分析・評価、推敲
ステージE [抽象]期			小5～中2 段階	高学年～中学の教科学習内容、抽象的概念 主題・要点の解釈、一貫性のある説明、ジャンル別作文
ステージD [因果]期		小3～小4 段階	聞 く ・ 読 む ・ 書 く ・ 話 す	中学年の教科学習内容、基本的概念 因果関係の理解・説明、テーマ作文
ステージC [順序]期	小1～小2 段階	聞 く ・ 読 む ・ 書 く ・ 話 す	小5～中2 段階	身近なこと・経験したこと、低学年の内容 順序に沿った理解・表現、出来事作文
ステージB [イマココから順序]期	小1～小2 段階	聞 く ・ 読 む ・ 書 く ・ 話 す	中3～高校 段階	身近なこと・経験したこと、幼児・低学年前半の内容 対話による支援を得て、おおまかに理解・表現
ステージA [イマココ]期	小1～小2 段階	聞 く ・ 読 む ・ 書 く ・ 話 す		身近なこと・体験したこと、幼児・低学年前半の内容 対話による支援を得て、断片的に理解・表現

【「ことばの発達と習得のものさし パッとわかるまるわかりガイド」（文部科学省）より】

#### ④ 日本語固有の知識・技能の習得ステップについて

- ・日本語の知識・技能の習得状況を次の観点から、八つのステップで評価します。  
(図 2)
- ・ステップの進み具合は**個人差が大きく**、数か月でいくつものステップを進めるこ  
ともあれば、数年同じステップにとどまることもあります。

図 2 「日本語の習得ステップ」の各段階の特徴

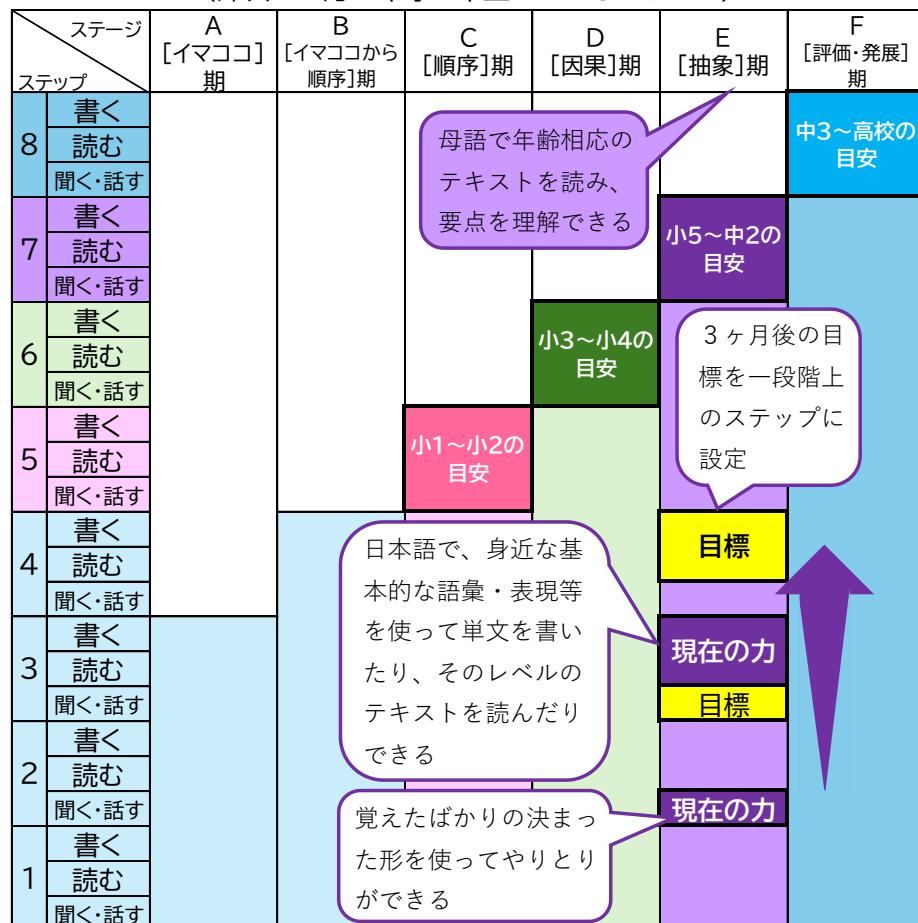
	小1～小2段階	小3～小4段階	小5～中2段階	中3～高校段階
ステップ8				中学から高校レベルの教科学習に必要な語彙・表現、談話・文章
ステップ7				高学年から中学レベルの教科学習に必要な語彙・表現、談話・文章
ステップ6			中学年レベルの教科学習に必要な語彙・表現、談話・文章	
ステップ5	日常的な語彙・表現(幅広い)、 低学年レベルの談話・文章(自由な単文・重文・複文の生成)			
ステップ4	日常的な語彙・表現(制限あり)、単文からの基礎的な重文・複文			
ステップ3	身近な語彙・表現、単文			
ステップ1～2	ごく限られた語、文字の習得の開始			

【「ことばの発達と習得のものさし パッとわかるまるわかりガイド」（文部科学省）より】

## ⑤ 評価から指導・支援へ

- ・学校や家庭等で、児童生徒の普段の生活や学習の様子を**多角的・包括的に観察**しながら活用します。
- ・**D L A**やその他のアセスメント、テストとの併用、**母語でのアセスメント**も効果的です。
- ・「包括的なことばの発達ステージ」を横軸、「日本語の習得ステップ」を縦軸として示すマトリックス図を使って、対象の児童生徒のことばの現在の力を確認します。(図3)
- ・「包括的なことばの発達ステージ」には、**日本語と母語の4技能の中で一番高いステージ**を記します。
- ・年齢枠の目安との位置関係を確認し、学習・指導計画の中で、**児童生徒の強みを生かしながら、目標の位置を決めます。**
- ・児童生徒の「わかる」「できる」を大切に、学習・指導計画を考えます。

図3 ステージとステップのマトリックス図  
(滞日4か月の中学校2年生:E2~3のケース)



【「ことばの発達と習得のものさし パッとわかるまるわかりガイド」(文部科学省)より】

「ことばの力のものさし」を活用した評価を行い、その結果を基に目標を設定し、実践に取り組んだ二つの事例について、<資料>に掲載しています。

## (2) 改訂版「DLA」の概要

### ① 「DLA」とは

DLAの正式名称は「文化的言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等のための対話型アセスメント DLA」(Dialogic Language Assessment for Culturally and Linguistically Diverse Students)です。DはDialogic(対話型)、LはLanguage(言語)、AはAssessment(アセスメント)で、それらの頭文字を取って DLA(ディーエルエー)と呼んでいます。DLAは、ペーパーテストでは捉えきれない、多文化多言語の児童生徒のことばの力を一対一の対話を通して捉えようとする支援つきの評価法です。また、児童生徒の全人的な発達を支えるために、児童生徒がもっているすべての力を使って何ができるのかを把握(予測)しようとする評価法でもあります。

### ② 「DLA」改訂のポイント

- ・「JSL評価参照枠」の廃止⇒「ことばの力のものさし」で評価
- ・DLA〈書く〉と〈聴く〉を削除\*、DLA〈話す〉の名称をDLA〈聞く・話す〉に変更
- ・DLA〈はじめの一歩〉と〈聞く・話す〉を多言語で展開
- ・高校生にも応用できるように、DLA〈聞く・話す〉と〈読む〉をマイナーチェンジ

\*「書く」力・「聴く」力の評価は日常の観察とポートフォリオを活用

〈ポートフォリオに保存するものの例（個人・グループの活動の記録）〉

#### 【低中学年の例】

- ・絵日記や出来事作文
- ・読書記録
- ・本紹介のブックカードやあらすじ日記
- ・植物の観察記録
- ・短い創作絵本や劇の台本
- ・インタビューを通じてまとめた紹介文
- ・授業でのひと言感想

#### 【中高学年の例】

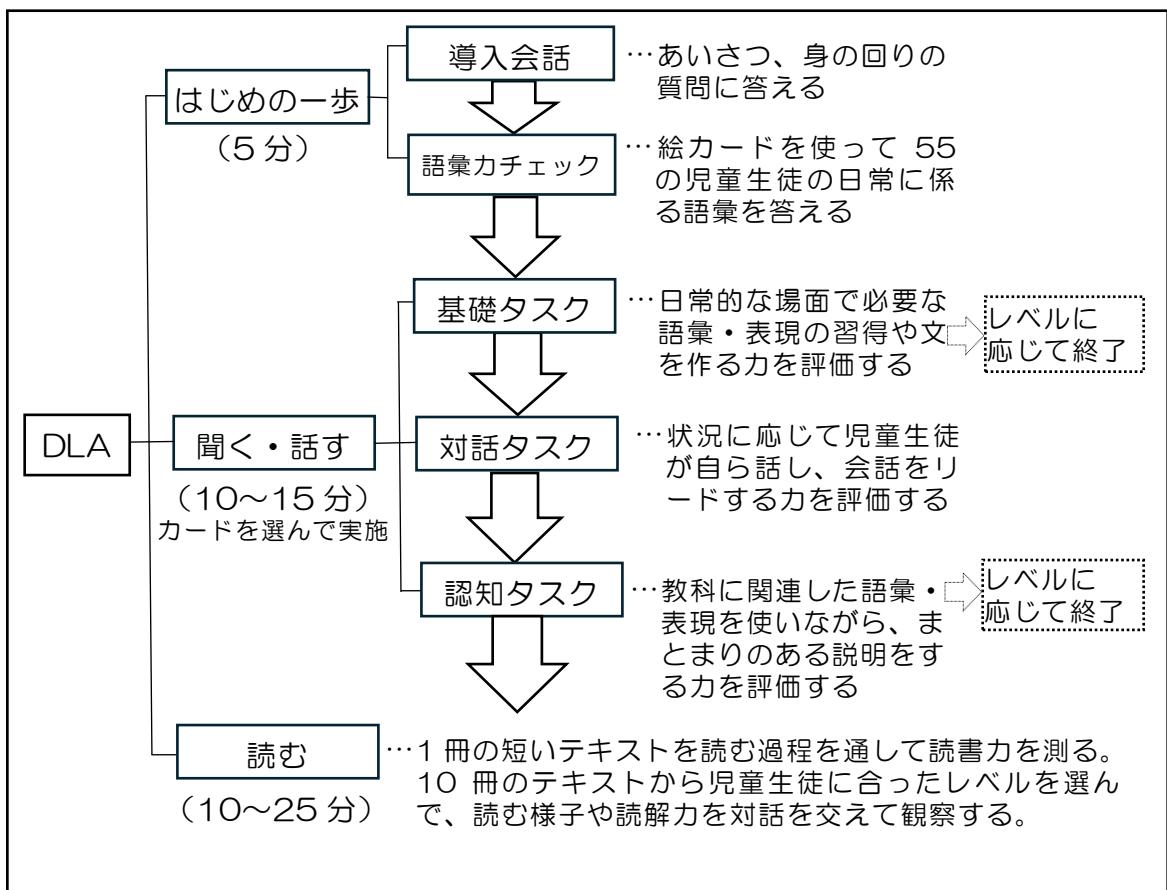
- ・調べ学習を基にしたレポート
- ・日本語と母語で書いたテーマ作文
- ・スピーチ原稿やプレゼンテーション資料
- ・ディスカッションやディベートの準備資料
- ・プロジェクトの成果物（ポスター、ビデオ作品など）
- ・授業での活動記録や振り返りシート
- ・自己評価の記録
- ・授業中の小テストやミニクイズ

### ③ D L A の構造

改訂版DLAは〈はじめの一歩〉と〈聞く・話す〉〈読む〉から構成されています。

〈はじめの一歩〉は5分程度、〈聞く・話す〉は10~15分程度、〈読む〉は10~25分程度で、すべて実施したとしても1コマ(45分)以内に終了します。

必要に応じて、児童生徒の母語でも実施します。



【文化的言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等のための対話型アセスメントDLA】(文部科学省)を基に作成】

### ④ 評価の方法

DLA実施時の録音・録画したデータを聴き(見)ながら、評価メモを使って児童生徒が「できること」「支援を得てできること」を振り返ります。その内容を「ことばの力のものさし」の記述文と照らし合わせ、日常の観察を含めて、児童生徒の「ステージ×ステップ」(p5図3参照)における現在の力を評価します。

## ⑤ 実施上の留意点

D L A の実施では、**和やかな雰囲気づくり**に心がけます。テストとして実施するのではなく、**対話を楽しむつもり**で臨みます。

### 【「導入会話」の設問】

**導入会話**

①初対面のあいさつ：  
【例】 こんにちは。私は、(自己紹介)です。

②説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。  
【例】 これから、○○さんが日本語でどのくらいお話ができるか知りたいです。わかることは何でも話してください。わからないときは、「わかりません」と言ってください。いいですか。

③質問：  
・次の順番で質問を進める。  
【例】 ①名前を教えてください／名前は何ですか。  
②何年生ですか。  
③何歳ですか／いくつですか。  
④誕生日はいつですか。  
⑤お兄さん／お姉さん（弟・妹）がいますか。

できる限り自然な速さでテンポよく、対話を進めます。

正面に向き合わずに、机の角を挟んで座ります。そうすることで、児童生徒とカードや空間を共有し、威圧感の軽減につながります。

### 【「はじめの一歩」語彙カード】

児童生徒が答えに詰まったり間違えたりしても正解を教えたり、訂正したり、発話を遮ったりせず、さっと次のカードに移ります。

### 【〈聞く〉・〈話す〉タスクカード】

児童生徒が質問の意味を理解できない場合は、ゆっくり繰り返します。それでも分からぬ場合は、短い、易しい言い方に変えて大丈夫です。

### 【「導入会話」の評価メモ】

＼評価メモ／		
導入会話 年月日		
名前	学年(年齢)	年生(才)
実施者の発話	意味が通じる返答ができた	備考
①「名前を教えてください／名前は何ですか」	<input type="checkbox"/>	
②「何年生ですか」		
③「何歳ですか／いくつですか」		
④児童生徒の前では採点や評価をしません。また DLA 〈はじめの一歩〉の後に〈聞く・話す〉や〈読む〉を続けて実施するので、すべての過程が終了してから評価を行います。		

### 【〈聞く・話す〉の評価メモ】

＼評価メモ／		
年月日		
名前	学年(年齢)	年生(才)
聞く・話す力について、何がどの程度できたかを次の観点にしたがってメモします。 この評価メモを「ことばの力のものさし」〈聞く・話す〉の記述文に照らして、評価します。		
聞く力		
基礎的な聞く力	自分自身や身近な話題で相手からの簡単な質問が理解できる	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し
発音・流暢さ		
発音・イントネーション	自然な発音やイントネーションで話せる	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し
流暢さ	やりとりが自然でなめらかである	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し
話す態度		
話す態度	自分から進んで発言し、会話をリードできる	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し
語彙		
日常語彙	身近な日常語彙・表現が使える	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し
語彙の質 (教科学習語彙)	適切な語彙・表現が使える (教科学習語彙を含む)	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し

【「文化的言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等のための対話型アセスメント D L A」（文部科学省）より】